

世田谷美術館と学校の連携プログラム  
20周年記念記録集

DOCUMENT  
2007-2016

# DOCUMENT 2007-2016

## 目次

世田谷美術館×学校 連携プログラムの歩み	2
特別プログラム 20周年を迎えて 吉田絵美	3
美術館と子ども達、つなげてつながるインターン 高田美汐	4
世田谷美術館インターン実習を経験して 木暮絵理	5
1・美術鑑賞教室特別プログラム 紹介	7
A   作家になりきってみる	8~10
B   作品から想像してみる	11~13
C   技法・パターンに注目してみる	14~16
D   いろんな方法で考えてみる	17~19
2・美術鑑賞教室特別プログラム 一覧	21~31



## 美術鑑賞教室

世田谷美術館には、1986年の開館以来たくさん子どもたちが訪れています。「美術鑑賞教室」という学校行事のひとつとして、世田谷区立の小学校4年生(63校<sup>※1</sup>)と中学校(31校)1年生全員、合計約8,000名が毎年やってきます。1997年からは、当館のボランティアである「鑑賞リーダー」とともに、少人数のグループに分かれて美術館を探検するという形式がスタート。展示室だけでなくライブラリーや創作室、屋外まで、約1時間半かけてまわります。開館30周年を迎えた現在も変わらず続いています。

## 特別プログラム(出張授業)

開館10年目の1996年からは、美術鑑賞教室の前後<sup>※2</sup>に、世田谷区立の小学校(希望制)へ「特別プログラム」をおこなってきました。いわゆる出張授業です。対象学年は美術鑑賞教室に来る4年生。45分もしくは90分で1つの授業をしています。授業を担当しているのは当館学芸員ではなく、インターンの学生たち<sup>※3</sup>です。インターン生は毎年4月から12月まで世田谷美術館で学び、オリジナルの授業プログラムを考えます。この特別プログラムも20年を迎え、これまでに150名を超えるインターン生が参加し、200を超えるプログラムがつけられました。授業当日は鑑賞リーダーもサポーターとして参加しています。

※1 2015年度までは64校。統廃合により2016年度は63校。

※2 美術鑑賞教室の約1週間前、もしくは約1週間後以内に実施しています。

※3 東京学芸大学生涯学習研究室との連携事業。同大学の3,4年生が中心。

約10年前にあたる2007年、特別プログラムの記録冊子第1号目であった『きょうは、とくべつ…』が刊行されてから、さらに10年。世田谷美術館が特別プログラムをはじめて、早20年という歳月が経ちました。同時に世田谷美術館は開館30周年を迎え、館全体の活動を振り返る節目ともなった今年度、特別プログラム20周年を記念して本誌を作成することにしました。

特別プログラムは、毎年メンバーを変えながらも絶えず続いてきた当館教育普及事業のひとつです。美術鑑賞教室、特別プログラムの対象である4年生は、当然のことですが毎年変わり、担当するインターンの大学生も次々と入れ替わります。また授業当日、子どもたちと密にコミュニケーションをとってくれる鑑賞リーダーも年々増えています。こうした新鮮な環境のなか、そこには常に活気に満ちた現場が生まれてきました。一方で、大学院生になってもインターンを続けたり、社会人になって鑑賞リーダーとして活躍するなど、当館と深くつながりを持つ仲間もこの20年で増えてきました。

これからも大切にしていきたいことは、このプログラムにかかわる誰もが、アートを「たのしむ」ということ。インターンの学生たちは授業を作り上げる過程で、何度も展示室に足を運びます。そこで、まずは自分が面白いと思った、あるいは少しでも気になると感じた、その些細な気持ちを出発点に授業を組み立てていきます。学生たちの思いは、率直に子どもたちにも伝わっていくものであると、教室にいるとひしひしと感ずることがあります。そして何か知識を習得する以上に、これから続く人生でアートが「たのしむ」ものとなりうる、そんな感覚を子どもたちに抱いてもらえたら、と願いながら続けてきました。

本誌では、2007年から2016年の10年間に実施された特別プログラムのうち、ティピカルな事例を紹介します。巻末には2007年以降の全プログラム一覧も掲載しています。この10年間にわたって積み重ねてきたプログラムのデータ集となることはもちろん、これまでの歩みをお伝えする1冊となれば幸いです。最後に、授業を実施する上でいつもご協力くださった先生方、インターンの皆さん、鑑賞リーダー、そして子どもたちに多大なる感謝を申し上げます。

吉田 絵美  
(世田谷美術館学芸員)

「来週の○曜日、どこに行くかわかる人はいますか？」出張授業の始めの問いかけに多くの子どもたちが手を上げ、明るく元気な声で「世田谷美術館！」と答えてくれる。インターン実習のことを思い起こすと、まず子ども達と交わした始めのやり取りが思い浮かびます。子ども達の声はいつでも緊張をほぐし、私自身も授業を楽しむスイッチを押してくれました。

インターン実習で行う出張授業は、授業者が考案するプログラムをインターン生同士の意見交換や試作の積み重ね、小学校の先生方との打ち合わせで頂く環境や子ども達の性格に寄りそった助言をもとに慎重に練り上げていきます。プログラムを考案する時には必ず、自分が展覧会を鑑賞した中で気になった作品を取り上げることを意識していました。慣れ始めると「この作品ならこういう授業ができるだろう」という考えも浮かぶようになりましたが、授業をしやすい作品ではなく、心に響いた作品から出発し、どこが自分は気になったのか実物のイメージをよく見ることと調べ学習などの知識を合わせて作品や作家を探求することを大切にしました。材料作りや道具の吟味など準備の苦労も多くありましたが、ひとつひとつのこだわりが小学校の先生方に思いを伝えることとなり、多くの協力を頂くことに繋がったように思います。

そして、授業中の子ども達の声や彼らの手から生まれた作品に出会う瞬間には、それまでの苦労を忘れ何にも代え難い喜びを感じます。毎度子ども達の発言や表現に驚かされる経験は、「また子ども達に会いたい！子ども達と美術館の作品に触れたい！」というインターン実習を続ける原動力にもなっていました。子ども達が作品に関して話してくれる言葉は、美術館の作品が「私個人の気になった作品」を離れて、より多くの見方があることも教えてくれました。

美術館で作品を見ることから、プログラムを作り上げ、その実践後まで。インターン実習では、インターン生、小学校の先生方や世田美の鑑賞ボランティアの方々、子ども達と多くの人々と出会い、そして言葉を交わすことで、美術館の作品への思いや見方が更新されていきます。出張授業は子どもたちにとって、彼らと美術館が出会う大切な時間であると共に、インターン生として実習を行う私自身にも他では決して得ることのできない唯一無二の時間を与えてくれました。

高田 美汐  
(2014-2016年 インターン)

私は子どもが苦手でした。特に、小学生ぐらいの年の子どもを苦手としていました。街中でその年頃の子どもの集団をみると、友人を盾にしながらできるだけそこから離れて歩こうとするほどです。

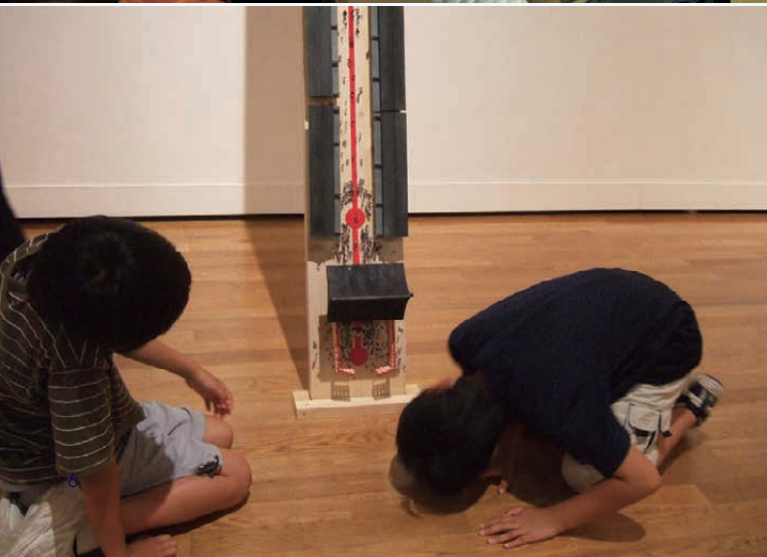
そんな中、一年間を通して美術館に中からかわることができるということを特に魅力に感じ、世田谷美術館インターン実習に参加することになりました。始めた時にはまさかここまで子どもたちにどっぷりかわることになるとは思いませんでした。対象は小学4年生。私が最も苦手としている年頃です。しかし、子どもが苦手なのは変わらずとも、授業をしている最中や、その準備をしている間はそんなことを忘れて自分に気づかされました。その瞬間には、鑑賞の際に自分の感じた面白さや楽しさをいかに伝えるかということが、私の最も大きな関心事項になっていたためです。

インターン実習を通してとても面白いと思ったことに、自分を含めた実習生や鑑賞リーダーさんたち一人一人が全く違う鑑賞をしていることがありました。それこそ実習生はそれぞれの専門が全く違うこともあり、同じ作品を選んだとしても全く違う切り口から授業を行っています。そのように「正解」のない美術鑑賞の中で、私の感じた「面白さ」や「この作品のここが好き」ということを、熱心に丁寧に伝えれば伝えるほど子どもたちは素直に様々な反応を返してくれました。それはまた一つの感動でもあり、子どもたちの柔軟な発想力から美術鑑賞に「正解」はないということに改めて実感し、むしろそれが鑑賞の楽しみ方の一つとできることに気づかされました。

何かと堅いイメージのある美術館や美術鑑賞ですが、世田谷美術館によってそのイメージがガラリと変わり、人と人のかかわりの中で成り立っている柔軟な美術館の姿を見ることができました。

木暮 絵理  
(2015-2016年 インターン)





## 1 美術鑑賞教室特別プログラム 紹介

2007年から2016年、世田谷区立の小学校で実施された「特別プログラム」=出張授業は約150プランに及びます。  
第1章では、その中から1つの展覧会につき1つまたは2つのプランを選び、計12プランを紹介します。

「A 作家になりきってみる」は、作家の作品づくりのプロセスを体験し、子どもたち自身も自分のオリジナル作品を作ってみるプランです。  
「B 作品から想像してみる」は、作品に出てくる人物について想像を巡らせたり、作品の続きを考えてみるプランです。  
「C 技法・パターンに注目してみる」は、作品の技術的な部分を体験したり、繰り返されるパターンについてじっくり向き合ってみるプランです。  
「D いろんな方法で考えてみる」は、身体をつかったり、別のアプローチをすることで作品をより楽しんでみようというプランです。

第2章(p21~)には、これら12プランを含む全プログラム一覧を掲載しました。各展覧会でどのような授業が生まれたのか、またどんな作品を紹介したのか見渡すことができます。

技法・パターンに注目してみる

作品から想像してみる

いろんな方法で考えてみる

作家になりきってみる

## A1 『草花でデザインしよう』

—「ミュージアム コレクション2012-II 花森安治と『暮らしの手帖』」(2012)—

### どんな展覧会？

家庭雑誌『暮らしの手帖』の編集長をつとめながら、装釘家、イラストレーター、コピーライター、デザイナー、ジャーナリストなど多彩な活躍をした花森安治。創刊号より描き続けた『暮らしの手帖』の全表紙原画103点を公開しました。

### どんな授業？

白画用紙を1人に1枚配布し、草花を置き位置を考える。位置が決まったらボンドで貼り付けてもらう。完成した作品を実物投影機を使って発表、鑑賞し合う。

### 使ったもの

作品図版1点、模造紙(台紙用)、クリアファイル(型用)、厚紙、水彩絵の具3色、お皿、実物投影機、はさみ、セロテープ、新聞紙など

### インターン生の声

子どもたちと会話することで、子どもたち自身の持つ作品イメージをより明確にできた。花森安治さん自身がこだわっていた影の演出についても発見してくれた。



## A2 『自分の名前の一文字皿をつくろう』

—「北大路魯山人 塩田コレクション 暮らしに息づく魯山人の世界」(2014)—

### どんな展覧会？

北大路魯山人と親交のあった塩田岩治氏のコレクション全点を展示。書・陶磁器・陶器・漆器・絵画のほかに、料理を盛り付けた器の写真(秋元茂撮影)も紹介しました。

### どんな授業？

作品を鑑賞した後、自分の名前から一文字を選び、紙皿に水彩絵の具で表現してもらう。好きな色や字にあった色を選びながら、字に色をつけ、時間がある場合は模様や背景を描く。

### 使ったもの

作品図版1枚、絵の具セット(水彩)、えんぴつ、紙皿

### インターン生の声

作例見本ではひらがなのものを見せたが、自分の名前への愛着から、難しい漢字に積極的に挑戦してくれる子が多かった。同じ字でも人によって違う皿ができあがるのも面白く、鑑賞教室でも書付け作品についてあれこれと考えながら見る様子が見受けられた。



A3

## 『「描き」文字で架空装丁体験をしよう！』

—「ミュージアム コレクション」

〈それぞれのふたり〉シリーズ 渡辺豊重と平野甲賀(2014)—

## どんな展覧会？

二人の版画作品による展覧会。  
踊るような文字が特徴的な平野甲賀は、たくさんの本の装丁を手がけました。

## どんな授業？

作品を鑑賞後、「装丁」について説明。国語の授業で習った文学作品のタイトルから1つ選んでもらい、装丁を考える。タイトルの各文字に、あらかじめ配布した6パーツを使って装丁をしてもらう。最後に発表。

## 使ったもの

クレヨン、色鉛筆、ハサミ、のり、スクリーン、実物投影機、B6(単行本)サイズの白画用紙、作品図版3点、色画用紙で作った文字の一面(1人6パーツ)

## インターン生の声

初めの作品鑑賞から、平野さんの文字がイメージを引き出し文字以上のことを伝えているということに気づき、具体的に発言してくれる子どもが何人もいた事に驚いた。明朝体の文字で書いたものと比較したことで、平野さんの描き文字に新鮮さを感じていたようだった。



B1

## 『樹のつづきを想像してみよう！』

—「福原コレクション 駒井哲郎 1920-1976」(2012)—

## どんな展覧会？

戦後日本の銅版画のパイオニアとして知られる駒井哲郎。  
主要作品に加え、貴重な初期作品やカラーモノタイプ作品も含め計500点を紹介しました。

## どんな授業？

作品を鑑賞後、一人ひとりに作品の続きを描いてもらう。  
全員の絵を一枚の紙に貼り「森」をつくり、鑑賞。

## 使ったもの

作品図版2点、色鉛筆(またはクーピー)、のり、はさみ、白い模造紙、画用紙など

## インターン生の声

自由に想像して、ツリーハウスや果物のなる樹、動物が住む樹など様々な樹のつづきを描いてくれた。また樹のつづきだけでなく、季節や樹の周りの状況、樹のストーリーなども考えてくれた。



## B2 『あの子の顔はどんな顔？』

—「アンリ・ルソーから始まる 素朴派とアウトサイダーズの世界」(2013)—

### どんな展覧会？

アンリ・ルソーの作品4点を核として、当館が所蔵する素朴派と、精神に闇をかかえながらも創作に意味を見出した、アウトサイダーたちの作品約140点を紹介しました。

### どんな授業？

作品を鑑賞後、描かれている子どもたちの様子や気持ちを想像してもらおう。その中でも、赤い服の女の子の表情を想像し、描く。描いたものをお面にして発表。

### 使ったもの

作品図版1点、発表する際にお面を支える棒、クレヨン、クリアファイル(型用)、厚紙、水彩絵の具3色、お皿、実物投影機、はさみ、はさみ、画用紙

### インターン生の声

自分を投影して描く子どもが多かった。何枚か制作し、時の流れを表現してくれた子どももいた。



## B3 『影の世界を想像しよう！』

—「桑原甲子雄の写真 トーキョー・スケッチ60年」(2014)—

### どんな展覧会？

東京の街を練り歩いた桑原甲子雄。1930～90年代に東京を写した作品に加え、1970年代のパリの様子を撮った作品なども紹介しました。

### どんな授業？

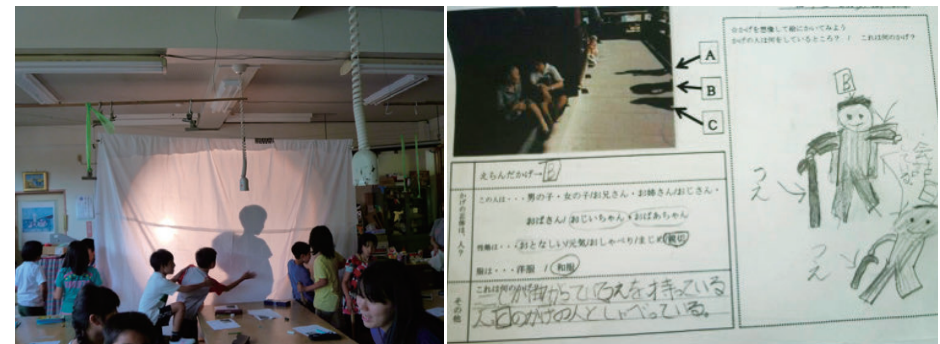
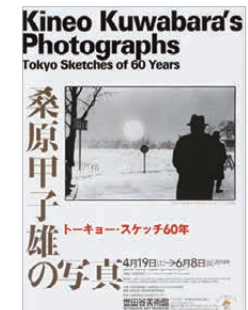
人影が写っている作品を鑑賞後、どんなポーズをしているのか想像してもらおう。実際にポーズをとり、班毎に発表する。

### 使ったもの

作品図版1点、ワークシート(ポーズを描いてみる)、スポットライト、大判の白い布1枚(投影用)

### インターン生の声

体を動かして影を作ることに積極的で、道具なども使って創意工夫を凝らして取り組んでくれた。写っている人々は何を考えているのかということ想像しながら鑑賞することで、写真作品に親しみを持ってもらえたように思う。





## C1 『つなげて楽しんでみよう』

—「ミュージアム コレクション 2013-1 柚木沙弥郎 いのちの旗じるし」(2013)—

### どんな展覧会？

染織工芸家である柚木沙弥郎のテキスタイル・アートの世界を紹介。近年、絵本の制作にも力を入れており、挿絵の水彩原画や指人形などの立体作品も展示しました。



### どんな授業？

作品を鑑賞後(同じ形が繰り返されていることに注目)、好きなかたちを作り、スポンジで色を付ける。お互いの作品を鑑賞する。

### 使ったもの

作品図版1点、模造紙(台紙用)、クリアファイル(型用)、厚紙、水彩絵の具3色、お皿、実物投影機、はさみ、セロテープ、新聞紙など

### インターン生の声

偶然できた型を見て、子どもたちがそれを動物や風景に見立てて一つの作品として作り上げてくれたことが感動した。



## C2 『パターンを使って作品を作ろう！』

—「ミュージアム コレクションII おもしろいかたちいろいろ」(2015)—

### どんな展覧会？

様々な作家の、時にユニークで時に不思議な作品を展示。イメージを膨らませて楽しめる抽象作品を紹介しました。



### どんな授業？

作品を鑑賞後、自分で好きなかたち考えてもらう。そのかたちに厚紙を切り型紙をつくる。あらかじめ選んであった布に型紙をあて、絵の具で塗る。何度か繰り返し、1枚の布を完成させる。机の上に完成作品を置き、みんなの作品を鑑賞。

### 使ったもの

作品図版1点、制作風景の写真、アクリル絵具(白)、筆、はさみ、カッター、新聞紙、実物投影機、スクリーン、厚紙(はがきサイズ)布(A3、赤・黄色・緑)

### インターン生の声

抽象的なかたちを作る際に考え込んで止まってしまうということはなく、皆独自に作り進めていたことに驚いた。布に絵具を塗り付けるという手法はあまり体験する機会が少ないので、楽しんでくれたようだった。



## C3 『葉拓を体験してみよう！』

—「ミュージアム コレクションII 神話の森 美と神々の世界」(2016)—

### どんな展覧会？

神話やさまざまな神は、作家たちの関心を寄せ魅了してきました。仏教、ギリシャ神話、マヤ文明などが垣間見ることができる作品を紹介しました。

### どんな授業？

インターンが墨を使った拓本を実践して見せる。その後、持ってきてもらった葉っぱを使い、フロッタージュの技法で拓本体験をしてもらう。

### 使ったもの

作品図版2点、拓本セット(墨、拓本タンポ)、葉っぱ、筆記用具、クレヨン(もしくはクーピー)、A4色画用紙(フロッタージュした紙を貼る)、半紙、はさみ、のり、セロハンテープ

### インターン生の声

実際に墨で拓本をやってみせることで、反応がとてもよかった。翌日に子どもたちが鑑賞教室に来た際も拓本作品に関心を寄せていた。



## D1 『絵を立体にしてみよう！』

—「ミュージアム コレクションI <それぞれのふたり>シリーズ 渡辺豊重と平野甲賀」(2014)—

### どんな展覧会？

二人の版画作品による展覧会。渡辺豊重の、色鮮やかでユーモア溢れる形が特徴的な版画作品を紹介しました。

### どんな授業？

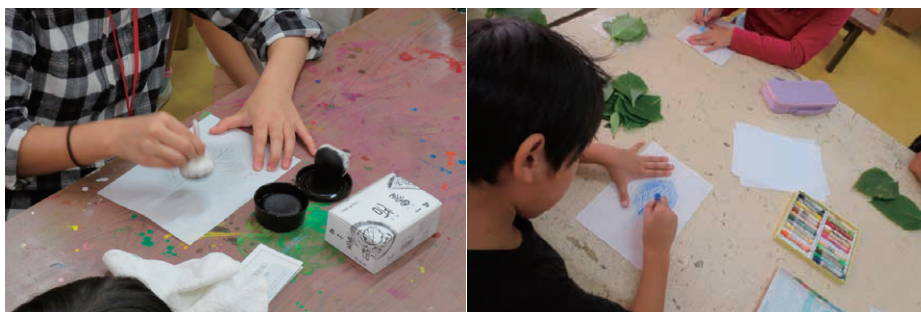
作品を鑑賞した後、1つ作品を選び、版画作品を紙粘土で立体として表現してもらう。

### 使ったもの

作品図版5点、マグネット、粘土版、紙粘土、バケツ、水、雑巾

### インターン生の声

描かれた物体から何か連想するという作業では、予想以上の反応・回答が得られた。特に《かたちNo.705》を選んだ児童は高さ、厚み、裏側を踏ませて制作している人も少々見受けられた。



D2

## 『身体の色を探そう』

—「ミュージアム コレクションI アーティスト・コロニー・セタガヤ  
—「白と黒の会」、「砧人会」、「自由が丘文化人会」(2016)—

## どんな展覧会？

世田谷に存在したグループ「白と黒の会」、「砧人会」、「自由が丘文化人会」に関係のあった作家たちの作品を紹介。個人の作品のほかに、グループのメンバーによる寄せ書きなども展示しました。

## どんな授業？

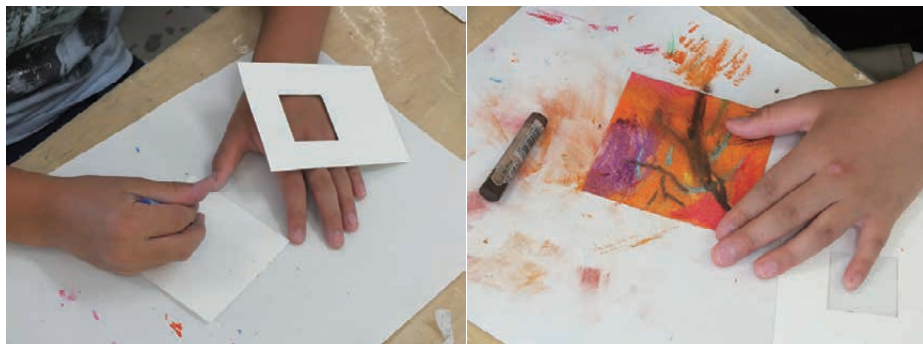
作品を鑑賞後、自分の皮膚の気になるポイントを探し、正方形にくり抜いた画用紙を肌当てる。その枠内の皮膚を画用紙に描いてみる。2枚描いたら台紙に貼り付けて完成。発表。

## 使ったもの

作品図版1点、クレヨン、のり、実物投影機、新聞紙、画用紙(正方形)1人2枚、B5色画用紙(台紙)、正方形にくり抜いた画用紙(皮膚の観察用)、ティッシュ、ワークシート

## インターン生の声

「身体をよく観察する・どんな色も使う・色を重ねる」ということに対して、思っていたよりも抵抗なく積極的に取り組んでいた。ワークシートの「気づいたこと」の欄に、「自分には自分だけのものがあること」という言葉があったのが印象的だった。



D3

## 『「うつろう」形を表現しよう』

—「ミュージアム コレクションIII  
ぜんぶ1986年—世田谷美術館の開館とともに」(2016)—

## どんな展覧会？

世田谷美術館が開館して30年を迎えるにあたり、開館した1986年ばかりの作品を紹介。絵画、彫刻、写真などのほかに、美術館の建築模型や設計図なども公開しました。

## どんな授業？

作品を教室で鑑賞後、屋上へ移動。班毎に一枚図版を選び、身体で《UTSUROI》の作品を表現する方法を考える。最後に班毎に実践してもらい、発表。

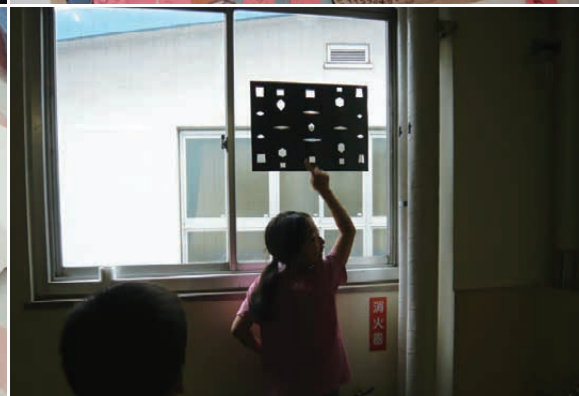
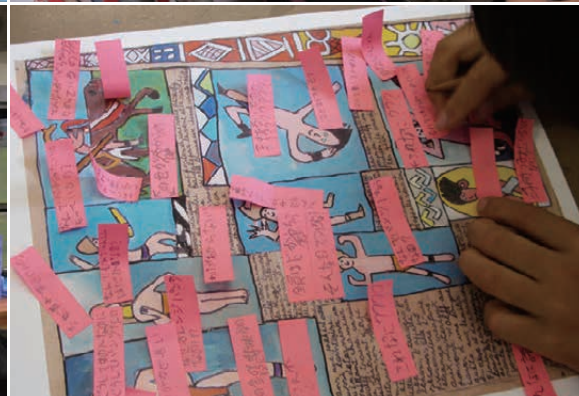
## 使ったもの

作品図版、屋外彫刻作品の図版(参考)、カメラ(動画撮影用)



## インターン生の声

展示室で見た瞬間に体を動かしたくなった作品。すべてのクラスにおいて、動きを見出すことができた。



## 2 美術鑑賞教室特別プログラム一覧

第2章では、2007年から2016年にかけて実施された特別プログラムの一覧を紹介します。  
実施した授業のタイトル、扱った展覧会・作品・作家名、授業担当者、学校名を掲載しました。

プログラム内容は、第1章で紹介したものにとどまらず多岐に及びます。  
授業を担当したインターンの学生の専攻分野は、美術に限らず、国語教育や社会学、科学、文化財保護、生涯学習、書道などさまざま。10年もの間、こうした多様なインターンが集まったことにより、あらゆる視点から生まれた授業プランが実現しました。

10年の振り返りが次の10年へとつながり、今後の「美術館と学校の連携のあり方」の一助となればと考えています。

※第1章で紹介したプランには、表の「授業タイトル」欄内にプラン番号(例:★A1)を掲載しています。



- 2007年度から2016年度までに実施した「特別プログラム」を紹介します。(2017年3月現在判明分)
- 2007年度までは企画展が特別プログラムの対象、2008年度以降はミュージアム コレクションが対象となりました。(2008年前期は試行期間)
- 「◇」は、当館の学芸員を示します。
- 「★」は、第1章で紹介したプランの分類番号を示します。
- 「※」は、授業タイトル・テーマ・授業担当者が現時点で不明な部分を示します。今後も特別プログラムのアーカイブ完成を目指し、調査を続けます。
- 授業の詳細(具体的な授業内容、記録写真)は当館にて保管しているものが多数あります。閲覧については当館までお問い合わせください。

年度	展覧会名	授業タイトル	作家	作品名	授業者	実施校
2007年度	青山二郎の眼	ぼつぼつ壺でもてみよう	-	《三彩獅子》唐(8世紀)	小林健一郎 横井絵美奈	城山 砧南 池之上
		展覧会を開こう!	-	(展示作業中の写真を紹介)	甲津理彦 原田恵理	山崎 千歳台 上北沢 代沢
		〇年△組コレクション!	-	《五彩花蝶文大皿(南京赤絵)》 清(17~18世紀)ほか数点	及川 梢	経堂 花見堂
		うつわのように挑戦	-	《白釉葉鉄絵牡丹文瓶》金(12~13世紀) 《青花虎文皿(古染付)》明(17世紀)	杉原麻美 和家令佳 小林健一郎	世田谷 山野 八幡山
	福原信三と美術と資生堂	香水びんをデザインする(授業者によって若干のタイトル、内容のアレンジを行った)	-	「香水ローズロワイヤル」 「香水ホワイト・ローズ(ナチュラル)」(株式会社資生堂提供による現物を鑑賞に使用)	川崎瑠衣 鈴木香奈恵	砧 多聞 九品仏 用賀 三宿
	バラオーふたつの人生展 鬼才・中島敦と日本のゴーギャン・土方久功	さんば仲間がまたひとり～音としての文学に触れよう!	土方久功	『ゆかいなさんば』1965年11月1日	越地智美	中里 旭
		バラオの地図を描こう	※	※	山田菜美	玉堤
		絵本『おおきなカヌー』～遠い南の島の森を想像してみよう～	土方久功	『おおきなカヌー』1963年1月1日	奈良美香	中町 塚戸
		バラオってどんなところ?～榎くんのようにみんなも想像してみよう～	-	中島・土方の写真等資料	山田菜美	玉堤 代田
		ストーリーボードに描かれている神話を推理しよう!!	-	(バラオ大使館からお借りしたストーリーボードを紹介)	橋本範子	希望丘 尾山台
		土方久功から中島敦へのお見舞いーバラオでのふたりの交友の思い出	土方久功	「敦ちゃんとの旅」(1)～(3)	和家令佳	船橋 太子堂

年度	展覧会名	授業タイトル	作家	作品名	授業者	実施校			
2008年度	建築がみる夢 石山修武と12の物語	自由に建築を考えよう! ～みんなが見るいろいろな夢～	石山修武	ドローイング 2007年6月28日 ～2008年6月19日	門田大悟	芦花 城山			
		第1期収蔵品展 物語が聞こえるーぼくたちのお気に入り チルドレンズ・ミュージアム	吹田文明 イヴァン・ラ ブジン 水木伸一 戸谷成雄	《星の門》1994年 《神秘的な光》1980年 《櫛》1979年 《森4》1991-92年	黒丸寛子	山崎			
	ダニ・カラヴァン展	光と影を感じよう	ダニ・カラ ヴァン	《ネゲヴ記念碑》1963-68年 《白い広場》1977-88年	小林健一郎 森田美和子	代沢 烏山北 船橋			
		素材から育ててみよう!言葉の木					《ネゲヴ記念碑》 《泉》1993-95年 《果樹園》2002年 《水滴》2008年	鈴木香奈恵	旭
		言葉の木を育てて、イメージの森をつくらう!! 光・水・砂・植物なんだっつけ?					《はじめて(創世紀)》1998-2000年 《ネゲヴ記念碑》1963-68年	黒丸寛子	東大原
		※ ちいさな「平和の道」をつないでみよう!					※ 《ネゲヴ記念碑》1963-68年 《平和の道》1996-2000年ほか	崎田千夏	若林 玉堤 奥沢
	第2期収蔵品展 アウトサイダー・アートの作家たち (特別同時展示)大地の歌を描く人々～ベルギー・クレアムの画家たち	わたしの線ってどんな線? ふしぎがいっぱい!!お話をみつけよう!	アウグスト・ヴァッラ オスヴァルト・チルトナー ニコル・ダイワイル	《友・神・ルシフェル》不詳 《お辞儀をする人たち》1993年	鈴木香奈恵	中里			
	山口薫展 都市と田園のはざままで	何が見えてくる?物をじっくりと見てみよう!!	山口 薫	《紐》1939年 《煙突のある風景》1952年 《林と動物》1958年 《白痴の愛(あやこ)》1955年 《白痴の愛(あやこ)》1955年 《むすめの像》1956年 《娘の肖像おぼへがき》1959年 《甲斐虎クマ》1961年 《水》1941年 《ボタン雪と騎手》1953年 《紐》1939年ほか 《蛸壺》など1939年 《黒曜石》1937年 《ボタン雪と騎手》1953年 《サラサラ粉雪ふる》1960年	田原美美 伏見彩美 佐藤晴香 田原美美 伏見彩美 崎田千夏 武蔵丘 田原美美 笹原	九品仏 祖師谷 上北沢 明正 武蔵丘 笹原			
		クマの話～山口さんとあやこちゃん					田原美美	上北沢	
		なぜ?かおのないかお					伏見彩美	明正	
		見つけよう こころの形					崎田千夏	武蔵丘	
		不思議な影の世界					田原美美	笹原	

年度	展覧会名	授業タイトル	作家	作品名	授業者	実施校
2009年度	第1期収蔵品展 人々のものがたり Part 1 人のかたち、人の 想い	先生の肖像画を描こう！	アンリ・ルソー	《フリュマンズ・ピッシュの 肖像》1893年	桐原瑛奈 細谷美宇 田村佳美 高橋真理子	世田谷 給田 北沢 砧南 中里 若林 千歳台
		絵の中の人物を読み解いて、 自らも伝えたいイメージを 人のかたち、人の 想い			中濱真帆	千歳
		この絵、どうなってるの？ 身体で再現！	田中亚木男	《眠られぬ夜》1979年	細谷美宇 桐原瑛奈	東深沢 終堂 松沢 桜町
		※	オルネオー レ・メテルリ	《中庭で口論する女たち》 作年不詳	渡辺横子◇	塚戸 代沢
		絵の世界を考えよう！	朝妻治郎	《人間》1948年	九十九由紀	鳥山 東玉川
		第1期収蔵品展 人々のものがたり Part2 利根山光人と マヤ・アステカの 拓本	アステカの人々になりきって 絵を描こう	利根山光人	《沈みゆく太陽》(拓本)	佐藤 彩
	マヤ文明の不思議な世界を 知ろう		《王墓大石棺のレリーフ》 (拓本)		黒丸寛子	用賀 (1,2校時)
	マヤの神聖文字を使って 自分の身のまわりの数字を 表してみよう！		《神聖文字》(拓本)		濱田美潮	用賀(3,4,5 校時)
	第2期収蔵品展 和のいろ・かたち 日本画と工芸 作品を中心に	体験！糸目糊を引いてみる！ (糰糊を糊筒から搾り出す 体験授業)	山田 貢	着物作品数点	村上由美◇	明正
		何が描かれているかな？		《一越縮緬訪問着「ながれ」》 1957年 《古代縮緬訪問着「草と蝶」》 1958年	伊藤玲子 田畑春香 内藤奈津美	芦花 赤堤
		着物の構造を知る～半紙で 着物を作ってみよう	山田 貢	《一越縮緬訪問着「ながれ」》 1957年 《友禅着物「網干文」》1985年 ほか	伊藤玲子 門田大悟 内藤奈津美 中濱真帆	守山 笹原 多聞 船橋 三宿 太子堂
		日本画の画材を体験しよう		稗田一穂	《凍流》1968年ほか	山本 彩 平野知佳子
		自分だけの「お宝部屋」をつ くろう！		展示作品図版数点	木戸孝典 越智 亮	松丘 玉堤

年度	展覧会名	授業タイトル	作家	作品名	授業者	実施校
2010年度	ミュージアム コレクションⅠ 建畠覚造 一アトリエの時間	抽象彫刻が何を表してい るのか考えよう	建畠覚造	《ORGAN No.10》の マケット 1963年頃 《杜・対話6》1999年	内藤奈津美	三宿 守山
		新作CLOUDをつくろう！		《CLOUD》1983年	九十九由紀 山根沙織	武蔵丘 桜町 希望丘 芦花
		※		※	田村佳美	東深沢 北沢
		うねうね発見タイム！		《WAVING LADDER-16》1994年	細谷美宇	終堂 世田谷 池ノ上
		絵からお話を創ろう！		《DISK 11》のマケット 1979年	古川 詞惟	桜丘 山野
		※		※	山本 彩	等々力 千歳台 駒繫
		※		※	※	松丘 砧南 若林 祖師谷 東玉川 二子玉川 砧 代田 多聞 赤堤
		※		※	※	※
		※		※	※	※
		※		※	※	※
		※		※	※	※
		ミュージアム コレクションⅡ 小堀四郎と隅外の娘 ひと筋の道		題名をつけてみよう	小堀四郎	《誕生》1942年
	オリジナル三部作を描こう		《無限静寂(暁の星一愛)、 (深夜の星一望)、(宵の明星一信)》 1977年	佐々木瞳		松沢
	作品から想像してみよう		《無限静寂(暁の星一愛)、 (深夜の星一望)、(宵の明星一信)》 1977年	内藤奈津美 伊藤玲子		船橋
	物語を作ろう		《無限静寂(暁の星一愛)、 (深夜の星一望)、(宵の明星一信)》 1977年 《斜陽》1950年 《初冬好日》1927年ほか	越智 亮 廣川明日菜 榎本和代		給田 八幡 東大原
	※		※	※		塚戸
	ラバン・アチールに台詞を つけよう		《ラバン・アチール》1932年	成田明子		玉堤
	旅行記を作ろう		《初冬好日》1927年	榊野千里		九品仏
	※		※	加藤歩樹		明正
	絵からお話を創ろう		《砂漠の太陽》1979年	古川 詞惟		笹原
	ここはどんな世界だろう？ 想像してみよう！		《無限静寂(暁の星一愛)、 (深夜の星一望)、(宵の明星一信)》 1977年 《生命の神秘(一)、(二)》1979年 《砂漠の太陽》1979年	山本 彩		代沢
	オリジナル絵本の1ページ を書こう		《無限静寂(暁の星一愛)、 (深夜の星一望)、(宵の明星一信)》 1977年	木戸孝典		弦巻
	※		※	※		旭

年度	展覧会名	授業タイトル	作家	作品名	授業者	実施校
2011年度	休館中の為、コレクションから素朴派を中心に紹介	空間を楽しむ『アンソニー・グリーンの世界を体験しよう!』	アンソニー・グリーン	《時計の修理/1946年の記憶》1980年 《復活祭/ル・ランシー》1981年	間島菜月	芦花 祖師谷 塚戸 九品仏
		絵に親しむ『新しい友だちです!!紹介します!!』	ルイ・ヴィヴァン ラスティスラウ・ラコフ アンドレ・ポーシャン アンリ・ルソー	《ムーランド・ドラ・ギャレット》1925年 《看板》1980年 《地上の楽園》1935年 《サン=ニコラ河岸から見たシテ島》1887-88年頃	成田朋子	笹原 世田谷
		新聞づくり『ぼく・私のオススメを伝えよう!』	アンリ・ルソー アンリ・ルソー セラフィーヌ・ルイ アンドレ・ポーシャン ルイ・ヴィヴァン カミーユ・ボンボワ グランマ・モーゼス (アンナ・メアリー・ロバートソン・モーゼス) オルネオーレ・メテルリ	《フリユマンス・ピッシュの肖像》1893年頃 《サン=ニコラ河岸から見たシテ島》1887-88年頃 《枝》1930年 《地上の楽園》1935年 《ばら色の衣装をつけた二人の踊り子》1928年 《ムーランド・ドラ・ギャレット》1925年 《三人の盗人たち》1930年 《川を渡っておばあちゃんの家へ》1944年 《楽師と猫》1937年	山田香純	経堂 千歳
		絵に親しむ『新しい友だちです!!紹介します!!』	ルイ・ヴィヴァン ラスティスラウ・ラコフ アンドレ・ポーシャン アンリ・ルソー	《ムーランド・ドラ・ギャレット》1925年 《看板》1980年 《地上の楽園》1935年 《サン=ニコラ河岸から見たシテ島》1887-88年頃	成田朋子	笹原 世田谷
		絵を「描く」『素朴派に見る、絵を描く楽しみ』～アートはとっても身近なもの～	オルネオーレ・メテルリ ビル・トレイラー 山下 清	《楽師と猫》1937年 《人と犬のいる家》制作年不詳 《晩秋》1940-1956年	丸山衣杏	桜 駒繫
		ちぎり絵体験『ちぎり絵の世界を体験しよう!』	山下 清	《晩秋》1940-1956年	西岡 梢	鳥山 代田 桜丘 東大原 松丘 太子堂 武蔵丘
		物語づくり『自分が作者だったら?』～お話を作る・自分なりの街を作る～	オルネオーレ・メテルリ	《楽師と猫》1937年	高橋のどか	絵田 三軒茶 屋 二子玉 川
		物語づくり『絵をじっくりみて、物語を創造しよう!』	アンドレ・ポーシャン ラスティスラウ・ラコフ オルネオーレ・メテルリ カミーユ・ボンボワ	《地上の楽園》1935年 《看板》1980年 《楽師と猫》1935年 《三人の盗人たち》1930年	古川詞惟	三宿 旭
		日常を絵にする『思いを画用紙に乗せて一体験や身近なものを、気持ちのままに表現してみよう』	アンリ・ルソー	《フリユマンス・ピッシュの肖像》1893年頃	山田香純	多聞

年度	展覧会名	授業タイトル	作家	作品名	授業者	実施校	
2012年度	福原コレクション 駒井哲郎 1920-1976	身近なものを使って版画をつくってみよう!	駒井哲郎	《海底の祭》1951年	西岡 梢	若林 武蔵丘	
		レースを使って版画をつくろう		《R夫人像》1970年頃	間島菜月	砧南 経堂 塚戸 桜 東玉川	
		○△□の組み合わせを楽しもう!		《「小影像集」 (旗と月のある風景)》1964年	森脇沙帆 鈴木萌里	砧 等々力	
		凹版画を体験しよう		《影(日本の四季より冬)》 1975年	渡部瑠璃	船橋 世田谷	
		紙やすりを使った版画をつくってみよう		《時間の迷路》1952年	清水千珠子	千歳	
		樹のつづきを想像してみよう! ★B1		《樹木》1958年	友高彩夏 間島菜月	松丘	
		R夫人になりきってみよう		《R夫人像》1970年頃	三原悠里	中丸 烏山北	
		地図に刷ってみよう		《地図のある静物》1972年	鶴巻あすみ	笹原	
		絵から想像してみよう —何が見える?何に見える?—		《球根たち》1960年	栗谷本頼子	代沢	
		夢のつづきを描いてみよう		《消えかかる夢》1951年	佐藤紀鈴	守山	
		違う世界を窓からのぞいてみよう		《Les Vases (壺)》1975年	今橋美紅	赤堤	
		コレクション 2012-II 花森安治と 『暮しの手帖』 ミュージアム		身近なものを並べて構成してみよう!	花森安治	《1世紀60号》1961年7月	鈴木萌里 松井麻美
	草花でデザインしよう★A1		《1世紀50号》1959年6月	清水千珠子		旭	
	お気に入りの柄を好きなように置いてみよう		《1世紀81号》1965年8月	今橋美紅		絵田	
	身近なもので雑誌の表紙をデザインしてみよう!		《1世紀61号》1961年8月 《1世紀85号》1966年7月	栗谷本頼子		二子玉 川	
	お手製ランプシェードを作ろう!		《1世紀17号》1952年9月	友高彩夏 森脇沙帆		九品仏	
	色の組み合わせを楽しもう		《1世紀17号》1952年9月	佐藤紀鈴 森脇沙帆		明正	
	対話する時間 世田谷美術館 コレクションに よる現代美術展	部屋の続きを描いてみよう	蔡 國強	《1世紀3号》1949年4月	鶴巻あすみ	駒繫	
		作品《延長》を音で表現しよう		《延長》1994年	佐藤紀鈴 間島菜月	玉堤	
		自然の美しさを発見してみよう 同じ葉っぱでもいろんな形や色 があって面白い		アンディ・ ゴールズ ワージー	《アオキの葉、草の茎でつなぎ 合わせ、木から吊るす、両側から 秋の光を受ける 大内山村 1987年11月20日》1987年	清水千珠子 西岡 梢 三原悠里	東大原
		布に描いてみよう!		クロード・ ヴィアラ	《無題》1988年	今橋美紅 友高彩夏	八幡
		泥と手で描く世界に一つの作品		リチャード・ ロング	《無題》1991年	鈴木萌里	中里

年度	展覧会名	授業タイトル	作家	使用作品名	授業者	実施校
2013年度	ミュージアム コレクション 2013-1 柚木沙弥郎 いのちの旗じるし	様々な見方の面白さを発見しよう!	柚木沙弥郎	《アニマル》1982年	西岡 梢	祖師谷 中丸 等々力
		型を用いて、作品をつくろう!		《春のけはい》1999年	友高彩夏	経堂 砧南 九品仏 駒繋 船橋 塚戸 武蔵丘
		様々な見方の面白さを発見しよう!		《ならば人ならば鳥》1983年	三原悠里 佐藤紀鈴	東玉川
		動物模様を想像しよう!		《アニマル》1982年	山内亜沙美 倉 嚙	給田 代沢
		色とりどりのカーテンを作ろう		《緞帳》2005年	平井菊花 山内亜沙美	東大原
		つなげて楽しんでみよう★C1		《うねり》2009年	三原悠里 佐藤紀鈴	希望丘 若林 松丘
		○を使って遊ぼう		《緞帳》2005年	倉 嚙 佐藤紀鈴	世田谷
	アンリ・ルソーから始まる 素朴派とアウトサイダースの世界	みんなの“秋”を作ろう!	山下 清	《晩秋》1940-1956年	西岡 梢 友高彩夏 山内亜沙美	八幡 千歳
		あの子はどんな顔?★B2	カミーユ・ボンボワ	《三人の盗人たち》1930年	平井菊花 佐藤紀鈴	砧 太子堂 瀬田
		登場人物のセリフを考えてみよう	オルネオーレ・メテルリ	《中庭で口論する女たち》制作年不詳	渡辺慎子◇ 倉 嚙 三原悠里	笹原
		絵の中の世界を想像してみよう	イヴァン・ラブジン	《雲》1987年	三原悠里	明正

年度	展覧会名	授業タイトル	作家	使用作品名	授業者	実施校
2014年度	桑原甲子雄の写真 トーキョー・スケッチ 60年	撮影者になりきってみよう!	桑原甲子雄	《下谷区上野公園山下(台東区上野四丁目)》 《東京昭和十一年》より 1937年	倉 瞻	笹原
		写真、撮る人・撮られる人		《世田谷区》(東京長日)より 1976年	鈴木淳子	若林
		写真の中の子になりきってみよう!		《世田谷区》(東京長日)より 1976年	西岡 梢	塚戸
		「昔」と「今」の違うところは?		《渋谷駅》(東京戦後)より 1965年	倉 瞻	東玉川
		何色デイズ? 君色デイズ! モノクロ世界を君色に彩ろう		《麴町区有楽町(千代田区)》1936年	板倉 輝	烏山北
		写真の旅に出かけよう		《浅草公園六区(台東区)》(夢の町)より 1935年	吉田絵美	東大原
		影の世界を想像しよう!★B3		《台東区浅草》(午後の微笑)より 1992年	中橋沙絵 峰岸優香	世田谷
		教室が「東京」!?! 身近なものを撮る楽しみ、モノクロ写真の楽しみを知る		《古時計》(世田谷がロ市)より 1936年	高田美汐	明正
		写真の中の子になりきってみよう!		《日本橋区日本橋交差点(中央区)》(東京昭和十一年)より 1937年	西岡 梢	砧南
		枠の中はどんな世界?		《足立区千住緑町》(東京昭和十一年)より 1938年	池田千尋	給田
		何色デイズ? 君色デイズ! モノクロ世界を君色に彩ろう～ハチ公デイズ編～		《渋谷駅前》(夢の町)より 1939年	板倉 輝 洲崎春香	祖師谷
		北大路魯山人 塩田コレクション 暮らしに息づく 魯山人の世界		「飲む」うつわ いろいろ	北大路魯山人	《色絵有平文湯呑》1941年
	自分の名前の一文字皿をつくろう★A2		《染付福字皿》1937年頃	峰岸優香		等々力
	自分のお茶碗を水墨画で描いてみよう!		《染付福字皿》1937年頃 《大明製染付鉢》1941年 《仁清作菊茶碗》制作年不詳 《茄子》制作年不詳 《海老》制作年不詳	大谷直矢 高田美汐		千歳
	食器の上はどんな味? 「織部扇面鉢」のストーリーを想像しよう!		《織部扇面鉢》1935-54年	板倉 輝		中丸
	ぼく/わたしの木の葉盆をつくろう		《木の葉盆(赤)》1935-54年 《木の葉盆(黄)》1935-54年	峰岸優香 洲崎春香		二子玉川
	どんな料理を盛り付けよう?		《染付海老文皿》1935-54年	中橋沙絵		武蔵丘 守山
	お皿セレクト!～料理にぴったりなお皿を選ぼう!		《志野台鉢》1935-44年	高田美汐		弦巻
	給食にキモノを着せよう! 料理が輝く器って?!		《織部扇面鉢》1935-54年	西岡 梢		用賀
	なりきり魯山人!		《黄瀬戸福字鉢》1941年頃	塚本万里		九品仏
	魯山人になりきって、料理とぴったりお皿を作ってみよう		《色絵染付鮑形鉢》1935-44年	倉 瞻		太子堂
	器の魅力 いろんな角度から		《雲錦鉢(中)》1940年 《富士鉢》1935-44年	鈴木淳子		三宿



年度	展覧会名	授業タイトル	作家	使用作品名	授業者	実施校
2015年度	ミュージアム コレクションⅠ 〈それぞれのふ たり〉シリーズ 渡辺豊重と 平野甲賀	会話する二つのかたち	渡辺豊重	《会話》2009年	峰岸優香	三宿
		「描き」文字で架空装丁体験 をしよう！★A3	平野甲賀	《文学的回想》1983年 《門の向うの劇場》1991年 《(架空装丁)暗闇へのフルーツ》 1994年	高田美汐 吉田絵美◇ 徳丸紗耶香	世田谷 給田 武蔵丘 塚戸
		自分の名前はどんなかたち？	渡辺豊重	《翔ぶ三角》 《翔ぶ三角(青)》 《翔ぶ三角(赤)》 《翔ぶ三角(緑)》 《翔ぶ三角(赤G)》全て1995年	徳丸紗耶香	砧
		いろいろな「の」	平野甲賀	《空気の音楽》1994年 《(架空装丁)兵士シュベイクの 冒険 下巻》制作年不詳	木暮絵理	若林
		なりたい『わたし』をデザイン する	平野甲賀	《(架空装丁)兵士シュベイクの 冒険 下巻》制作年不詳	藤森みのり	太子堂
		絵を立体にしてみよう！ ★D1	渡辺豊重	《かたちNo.705》1970年 《かたち(ポヨヨニー)》1973年 《エボック氏の優雅な日々2月》 1975年 《みどりの中の白(スプリング)》 1978年 《むらさきの中の三本の白(ピ クニック)》1978年	徳永夏奈	八幡
		かたちのからだ	渡辺豊重	《ピクニックランド》2000年	森田有貴	烏山北
		名前の文字をデザインしよ う！	平野甲賀	《門の向うの劇場》1991年 《文字の力》1992年 《空気の音楽》1994年	徳永夏奈	等々力
		抽象表現をしよう	渡辺豊重	《エボック氏の優雅な日々1月》 1975年 《みどりの中の二つの白(会話)》 1978年	青砥めぐみ	守山
		好きな本のタイトルをデザ インしよう	平野甲賀	《胃袋を買いに。》1991年 《学校は死んでいる》1992年	谷口彩絵 吉田絵美◇	北沢 三軒茶 屋
		「文字の力」を表す一言を作 りましょう！	平野甲賀	《文字の力》1992年	詹 瞻	城山
		平野甲賀氏のデザインを体 験しよう	平野甲賀	《イロハニホヘト》1991年 《いろはにほへと》1994年	井手由紀子	祖師谷
		語る色とかたち	渡辺豊重	《アンダルシアの恋人達(OR- ANGE)》 《アンダルシアの恋人達(RED)》 《コルドバに雨が降る》全て 1999年	湯山史乃	駒繫
		抽象画を描いてみよう	渡辺豊重	《かたち(ポヨヨニー)》1973年 《飛ぶ三角(赤)》1995年 《飛ぶ三角(赤G)》1995年 《グラナダの光と影(BLUE)》 1999年 《会話》2009年	只木 歩	東大原
	ミュージアム コレクションⅡ おもしろい かたち・ いろいろ	記号の反復で絵を描こう	ジュゼッペ・ カポグロッシ	《無題》1957年	青砥めぐみ	砧南
		シカクいかたちを楽しもう	堀内正和	《シカク》1958年	藤森みのり	弦巻
		コラージュをつくってみよう	難波田龍起	《鉄片のコラージュ5個》 《わが庭の出土(コラージュ)D》 ともに1992年	堀田透子	中丸
		布や糸を使って表現してみ よう	藤岡蕙子・ 佐久間美智子	《静けさの回帰・Ⅱ》1980年	徳永夏奈	瀬田
		パターンを使って作品をつ くろう！★C2	クロード・ ヴィアラ	《無題》1988年	井手由紀子	二子玉 川

年度	展覧会名	授業タイトル	作家	使用作品名	授業者	実施校
2016年度	ミュージアム コレクションⅠ アーティスト・ コロニー・セタ ガヤ	みんなと寄せ書きを作 ろう	諸家(白と 黒の会) 難波田龍起 佐藤忠良	《「白と黒の会」寄せ書き》1951年 《たたかいの日々》1953年 《魚商の女》1960年	木暮絵理 谷口彩絵	砧 烏山北
		季節を図形であらわし てみよう！	難波田龍起	《二月のたてもの》1953年	吉田絵美◇ 《授業考案は 石井紗輝》	八幡
		みんなでストーリーを 作ろう	原 精一 宮本三郎	《三人》1964年 《死の家族》1950年	三浦菜留美	世田谷
		掛け軸をつくってみよ う	宮本三郎 宮本三郎 福田豊四郎	《絵》1947年 《小供角力》1945年 《曲水図》1927年	檜垣知沙	祖師谷
		絵の中の主人公の顔を 「そうぞう」しよう！	庫田 發 森 芳雄	《レクイエム》1971年 《窓辺の女》1968年	高田美汐	太子堂
		色紙貼交屏風をつくろう	諸家(白と 黒の会) 諸家(自由が 丘文化人会)	《色紙貼交屏風(二曲一隻)》1951年 《色紙貼交屏風(二曲一隻)》制作年不詳	木暮絵理 堀田透子	瀬田
		紙粘土でお城を作ろう	向井良吉	《蟻の城Ⅲ》1960年	木暮絵理	若林
		身体の色を探そう★D2	宮本三郎	《死の家族》1950年 《画室の裸婦》1954年	和泉田絢子 千野希帆子	武蔵丘
		削って描こう！	須田 寿	《群》1960年 《帰郷》1981年	大塚菜々美 近本由紀子	赤堤
		咲かせよう！からだで つくる 花のかたち	澤田政廣	《曼珠沙華》1959年	菊島彩佳	給田
		あったらいいな、こんな イス	野口道方	《ホールのための回転する花器のある 衝立》1957年	徳永夏奈	三軒茶 屋
		みんなで船に乗り込もう	フェルディ ナン・デス ノス	《ノアの方舟の建造》1950年	木暮絵理 吉田絵美◇	烏山
		絵の中の世界を想像し よう	フェルディ ナン・デス ノス	《ノアの方舟の建造》1950年	木暮絵理 徳永夏奈 堀田透子	砧南 弦巻
		トゲトゲとまるまる ーイメージからふくら む表現ー	間所(芥川) 紗織	《古事記より》イザナギの部分 1957年	木暮絵理	京西
	自分の太陽をつくろう	利根山光人	《コロナ(A)》 《コロナ(B)》ともに1984年	大塚菜々美	上北沢	
	葉拓を体験してみよ う！★C3	利根山光人	《心臓を喰うジャガー》制作年不詳 《十字の神殿》制作年不詳	石井紗輝 三浦菜留美	駒繫	
	色の力を感じよう！	福沢一郎 利根山光人	《卑弥呼宮室に入る》1980年 《雨乞い》1987年	早野胡桃	下北沢	
	ミュージアム コレクションⅢ ぜんぶ1986年 ー世田谷美術館 の開館とともに	まるの奥をみてみよう	桑原盛行	《ドローイング(奥行へ)シリーズ(筆を 使った円のシリーズ)(71)》 《ドローイング(奥行へ)シリーズ(筆を 使った円のシリーズ)(72)》 《ドローイング(奥行へ)シリーズ(筆を 使った円のシリーズ)(73)》全て1986年	堀田透子	九品仏
		写真にコメントをつけ てみよう！	赤瀬川源平 林 丈二 藤森照信	《影の木(中央区明石町)》1986年 《ホラー動物園その二(港区六本木)》 1986年 《シーソーハウス(中央区月島)》1986年	徳永夏奈	船橋
		「うつろう」形を表現し よう★D3	宮脇愛子	《UTSUROHI 86-D》 《UTSUROHI 86-E》 《UTSUROHI 86-F》全て1986年	木暮絵理	二子玉 川
言葉と音を想像しよう		横尾忠則	《青い沈黙》1986年	和泉田絢子	等々力	
廃材アート		大竹伸朗	《漁船窓Ⅰ》1986年	早野胡桃	東玉川	
重なる色 違う色		桑原盛行	《ドローイング(奥行へ)シリーズ(筆を 使った円のシリーズ)(71)》 《ドローイング(奥行へ)シリーズ(筆を 使った円のシリーズ)(72)》 《ドローイング(奥行へ)シリーズ(筆を 使った円のシリーズ)(73)》全て1986年	千野希帆子	用賀 塚戸	

## 謝辞

本冊子を制作するにあたり、これまで本プログラムに関わった様々な方に多大なるご協力をいただきました。

ここに記して深く感謝申し上げます。

世田谷美術館と学校の連携プログラム 20周年記念記録集  
DOCUMENT 2007-2016

編集: 吉田絵美 新宮和聖(資料整理)

デザイン: 高村瑞世

発行日: 2017年3月31日

発行者: 世田谷美術館  
〒157-0075 東京都世田谷区砧公園1-2  
電話 03-3415-6011(代)  
<http://www.setagayaartmuseum.or.jp>

印刷: 日本プロセス株式会社

©世田谷美術館 2017

